

研究会・シンポジウム報告

2016年3月26日(土) 定例研究会報告

テーマ： 漁業経済と関連の研究報告(第10回TEMF研究会との共催)

報告者： 小川健(経済学部)、青木秀夫(三重県水研)、徳永佳奈恵(東大)、
若松美保子(九大)、小塚晃(富山県水研)、東田啓作(関西学院大)

時間： 10:20~18:30

場所： 専修大学・神田校舎1号館8階8C会議室

参加者数：16名

報告内容概略：漁業経済と関連の研究として広範囲な研究報告が行われた。

小川報告) 漁業経済の研究等でも有益そうなツール2種類を紹介報告。質問紙調査法での4件法の結果の統計的処理に Brunner-Munzel 検定を活用する方法、および式からグラフの作成・ n 次/連立方程式求解ができる Microsoft Mathematics の利用法の紹介。

青木報告) 国内海面養殖業の費用構造を分析し、将来の経営改善提言の下地資料化。三重県に多い養殖項目を中心に、魚類と貝・藻類で分けて支出費目の校正・変動費率と固定比率の関係を明示。経営指標による評価を提示。変動・固定比率と経営指標の関係を明示。

徳永報告) 鮪鯨類を念頭に行き来のある領域化水域と海水温度の理論・実証研究。領海外部への逃走の可能性を考慮した、行き来のある2国領海での魚資源とエルニーニョ・ラニーニャ現象との関係を理論及び実証研究により提示し、気候変動への政策的対応を進言。

若松報告) 日豪間捕鯨問題に対し仮想評価法とコースの定理での問題解決法の模索。日本に捕鯨権がある前提で、豪国が捕鯨中止を金銭補償により国際合意して実現する可能性とそ
のときの金額をアンケート調査と仮想評価法で実施。政策インプリケーションを提言。

小塚報告) 潮流ブイを用いた富山湾内の流れの季節変化と日変化の分析の報告。地域ブランド・氷見ブリの一極集中問題を抱える富山湾で、地域格差と年での大きな漁獲変動への対策を検討する一端として、潮の流れの季節変化からその手掛かりを得る一里塚を報告。

東田報告) 手番の内生化を含んだ各国漁業参入者数決定のゲーム理論的分析の報告。基礎的
同時手番・逐次手番の数量選択の知見を活用し、手番の内生化を行うことで、不法なIUU漁業等の可能性も含んで各国漁業参入者の決定に関し逐次手番になる可能性を検討。

記：専修大学経済学部・小川健